



2021年2月19日

各 位

会 社 名 株式会社フジオフードグループ本社  
代 表 者 代 表 取 締 役 藤 尾 政 弘  
(東証第一部 コード番号 2752)  
問 合 せ 先 執行役員 グループ財務経理担当 仁田 英策  
TEL 06-6360-0306

**(訂正・数値データ訂正)2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)  
の一部訂正について**

当社は、2020年11月13日に開示いたしました「2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 訂正内容と理由

訂正内容と理由につきましては、本日公表の「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度決算短信等の訂正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正の箇所には\_\_\_\_を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、上記の訂正事項については、訂正後のみ全文を記載しております。

以 上



## 2020年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月13日

上場会社名 株式会社 フジオフードグループ本社  
 コード番号 2752 URL <http://www.fujiofood.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤尾 政弘

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ財務経理担当 (氏名) 仁田 英策

TEL 06-6360-0306

四半期報告書提出予定日 2020年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年12月期第3四半期の連結業績(2020年1月1日～2020年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	19,447	32.4	2,472		2,403		3,379	
2019年12月期第3四半期	28,748	7.6	1,318	23.4	731	56.5	132	84.0

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 3,378百万円 ( %) 2019年12月期第3四半期 219百万円 ( 72.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	78.32	
2019年12月期第3四半期	3.08	3.06

当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期第3四半期	25,494	5,232	20.5	121.04
2019年12月期	26,175	9,092	34.7	210.62

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 5,226百万円 2019年12月期 9,085百万円

当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期		0.00		22.00	22.00
2020年12月期		0.00			
2020年12月期(予想)					

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無 2020年12月期の配当につきましては、未定とさせていただきます。

2. 2020年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、2019年12月期につきましては分割前の実際の配当金の金額を記載しております。2019年12月期期末配当金の内訳 普通配当 20円00銭 創業40周年記念配当 2円00銭

### 3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,675	27.9	1,884		2,323		3,439		79.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年12月期3Q	44,580,660 株	2019年12月期	44,539,060 株
期末自己株式数	2020年12月期3Q	1,403,430 株	2019年12月期	1,403,430 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年12月期3Q	43,149,329 株	2019年12月期3Q	43,025,894 株

当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
(重要な後発事象) .....	9
3. その他 .....	9
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の影響により消費活動が停滞し、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、外出自粛や各自治体からの休業・営業時間短縮等の要請に伴う来店客数の減少、消費者の生活様式の変化に伴う各社の業態転換やテイクアウト・デリバリー競争の激化等、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは、「大衆というカテゴリーで日本一の外食企業となる」という確固たる目標のもと、既存事業の全体的な底上げを行うための商品開発、業態ごとの販売促進キャンペーン活動、店舗におけるサービス力向上を図るための教育・研修体制の強化等を行い、「まいどおおきに食堂」を中心として、「神楽食堂 串家物語」、「手作り居酒屋 かつぼうぎ」、「つるまる」をはじめとする全業態の経営成績の向上に全社一丸となって取り組みました。また、テイクアウトメニューの充実や対象店舗拡大に注力し、新しい生活様式においてもお客様に満足していただける店舗運営に努めてまいりました。

新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、従業員とおお客様の安全確保を第一に、従業員の個人衛生チェックの実施やマスク着用の徹底、正しい手洗いやアルコール消毒の徹底、レジ前や客席での飛沫感染防止対策に取り組みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高194億47百万円（前年同期比32.4%減）、営業損失24億72百万円（前年同期は営業利益13億18百万円）、経常損失24億3百万円（前年同期は経常利益7億31百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失33億79百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益1億32百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### <直営事業>

直営事業におきましては、国内及び海外において「まいどおおきに食堂」「神楽食堂 串家物語」「手作り居酒屋 かつぼうぎ」「つるまる」等の事業展開を行っております。

当事業におきましては、「まいどおおきに食堂」を中心とした季節フェアキャンペーンの推進、既存店舗の美装改装、お弁当販売やテイクアウト、宅配代行によるデリバリー対象店舗の拡充を行い、全ブランドの既存店の業績改善に努めてまいりました。

以上の結果、直営事業全体の売上高は185億3百万円（前年同期比32.1%減）、セグメント損失は5億94百万円（前年同期はセグメント利益23億63百万円）となりました。

#### <FC事業>

FC事業につきましては、当社トレーナーが各加盟店に臨店して行う調理指導の他、店長会議、トレーナー会議等を通じて直営店における成功事例・問題点の共有を進めることにより更なる集客力の向上を図っております。

今後も加盟企業との親密なコミュニケーションを図りながら問題点の洗い出し・解消を図り、さらなる集客・売上向上を目指してまいります。

以上の結果、FC事業全体の売上高は9億44百万円（前年同期比37.5%減）、セグメント利益は6億36百万円（前年同期比38.1%減）となりました。

当社グループの2020年9月末時点の店舗数は857店舗（直営店（国内）528店舗、直営店（海外）5店舗、FC店（国内）320店舗、FC店（海外）4店舗）となりました。ブランド別の店舗数は以下のとおりです。

	直営店 (国内)	直営店 (海外)	FC店 (国内)	FC店 (海外)	合計
まいどおおきに食堂	139	4	238	1	382
神楽食堂 串家物語	82	-	28	-	110
手作り居酒屋 かつぼうぎ	31	-	5	-	36
つるまる	42	-	8	3	53
その他	234	1	41	-	276
合計	528	5	320	4	857

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して総資産は6億81百万円減少し、254億94百万円となりました。

資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末から9億61百万円減少し、固定資産が2億80百万円増加しております。流動資産が減少した主な理由は、現金及び預金の減少5億12百万円、預け金の減少5億34百万円によるものであります。固定資産が増加した主な理由は、有形固定資産の内、建設仮勘定の増加2億82百万円、投資その他の資産の内、繰延税金資産の増加12億19百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して31億79百万円増加し、202億61百万円となりました。これは主に借入れの実行による借入金の増加44億10百万円によるものであります。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当金の支払い等により、52億32百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の通期の業績予想につきましては、2020年8月14日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,074	2,561
売掛金	448	294
たな卸資産	206	156
前払費用	326	287
預け金	1,287	753
その他	253	581
貸倒引当金	△0	△1
流動資産合計	5,595	4,633
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	16,934	17,608
減価償却累計額	△7,566	△8,101
減損損失累計額	△988	△1,092
建物及び構築物 (純額)	8,378	8,414
工具、器具及び備品	5,680	5,918
減価償却累計額	△4,533	△4,824
減損損失累計額	△219	△283
工具、器具及び備品 (純額)	927	810
土地	1,519	1,523
建設仮勘定	241	524
その他	362	392
減価償却累計額	△280	△308
その他 (純額)	82	84
有形固定資産合計	11,150	11,357
無形固定資産		
のれん	1,758	1,684
その他	58	61
無形固定資産合計	1,816	1,746
投資その他の資産		
投資有価証券	1,084	511
関係会社株式	681	325
繰延税金資産	630	1,849
敷金及び保証金	4,293	4,083
その他	946	1,001
貸倒引当金	△22	△15
投資その他の資産合計	7,613	7,756
固定資産合計	20,579	20,860
資産合計	26,175	25,494

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,596	1,085
未払金	1,632	1,244
未払費用	555	458
資産除去債務	11	39
賞与引当金	42	15
株主優待引当金	95	124
未払法人税等	335	105
未払消費税等	299	225
短期借入金	200	4,950
1年内返済予定の長期借入金	2,621	2,917
その他	123	196
流動負債合計	7,513	11,362
固定負債		
長期借入金	7,391	6,756
リース債務	56	58
資産除去債務	1,161	1,148
預り保証金	300	289
長期末払金	126	113
繰延税金負債	33	33
持分法適用に伴う負債	500	500
固定負債合計	9,569	8,899
負債合計	17,082	20,261
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,194	2,209
資本剰余金	2,075	2,090
利益剰余金	5,707	1,818
自己株式	△876	△876
株主資本合計	9,101	5,242
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△31	△24
為替換算調整勘定	15	8
その他の包括利益累計額合計	△16	△16
新株予約権	7	5
純資産合計	9,092	5,232
負債純資産合計	26,175	25,494



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	28,748	19,447
売上原価	10,137	7,202
売上総利益	18,611	12,244
販売費及び一般管理費	17,293	14,717
営業利益又は営業損失(△)	1,318	△2,472
営業外収益		
受取利息	3	3
貸貸収入	28	20
施設利用料	60	10
雇用調整助成金	-	84
その他	17	47
営業外収益合計	110	166
営業外費用		
支払利息	36	42
持分法による投資損失	25	20
貸貸収入原価	21	16
その他	27	17
営業外費用合計	111	96
経常利益又は経常損失(△)	1,316	△2,403
特別利益		
固定資産売却益	0	-
新株予約権戻入益	-	0
受取保険金	9	-
特別利益合計	9	0
特別損失		
店舗解約損	18	143
店舗休止損失	-	367
固定資産除却損	38	48
減損損失	215	680
投資有価証券評価損	70	584
子会社株式評価損	-	300
その他	5	7
特別損失合計	348	2,131
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	978	△4,534
法人税等	434	△1,154
四半期純利益又は四半期純損失(△)	543	△3,379
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	543	△3,379

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	543	△3,379
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	86	7
為替換算調整勘定	△13	△6
持分法適用会社に対する持分相当額	13	△0
その他の包括利益合計	86	0
四半期包括利益	630	△3,378
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	630	△3,378

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国の一部店舗の休業及び営業時間の短縮等により来客数が減少し経営成績に大きな影響を受けております。

しかしながら、当社の経営成績に回復基調が見られており、2020年9月度の既存店の月次売上高は概ね8割程度まで回復していることから、第4四半期以降も緩やかな回復傾向が続くという仮定のもと、固定資産の減損、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日 至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	FC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	27,237	1,511	28,748	—	28,748
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	27,237	1,511	28,748	—	28,748
セグメント利益	2,363	1,027	3,390	△2,072	1,318

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,072百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間において、株式会社グレートイースタンを連結子会社としたことに伴い、前連結会計年度の末日と比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「直営事業」セグメントにおいて1,344百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては215百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社グレートイースタンを連結子会社としたことに伴い、のれんの金額に重要な変動が生じております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間の「直営事業」セグメントにおいて1,698百万円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2020年1月1日 至2020年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	FC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	18,503	944	19,447	-	19,447
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	18,503	944	19,447	-	19,447
セグメント利益又は損失(△)	△594	636	42	△2,514	△2,472

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,514百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては680百万円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。